



2019年元日、安波山より復興の進む気仙沼市街と気仙沼大島大橋を望む（奥原幹雄撮影）

島大橋も完成し、本年4月から

本土地元高校生

も、キャンプ全体として大きく成長することができたと思えます。

今年7月26日(金)～28日(日)に開催する第8回ドリームキャンプに向け、その運営資金を調達するため、社会福祉法人宮城県共同募金会の事業「みやぎチャレンジプロジェクト」に参加することになりました。

これは、共同募金の仕組みを利用して、ドリームキャンプ開催にご支援くださる方々(個人・団体)に募金をお願いし、集まった金額に応じて、共同募金会から、それに乗せて助成していただくというものです。

詳しくは以下の通りです。

(1) 振込方法について

『ひかり新聞』36号に同封したチラシにある専用の振込用紙に、必要事項をご記入の上、お手数をおかけしますが、必ず郵便局の窓口にてお振り込みください。振込料はかかりません。

なお、募金期間は平成31年1月1日～3月31日ですが、30日・31日は土曜・日曜日で郵便局窓口は閉まっていますので、29日(金)までにお願いたします。また、3月末の期限後に振り込まれた場合は「赤い羽根共同募金」として扱われますのでご注意ください。

チラシご入用の方は、実行委員会・奥原(連絡先は次頁に記載)までご連絡いただければお送りします。

ひかり新聞

共生共助の社会をめざす

2019.1.20
No.36

一般社団法人
ひかりプロジェクト

明けまして

おめでとーございませう

ドリームキャンプ実行委員会

委員長 奥原 幹雄

本年も、ドリームキャンプ活動へのご支援、ご協力、ご参加をよろしくお願いたします。

今年7月26日(金)～28日(日)に開催する第8回ドリームキャンプに向け、その運営資金を調達するため、社会福祉法人宮城県共同募金会の事業「みやぎチャレンジプロジェクト」に参加することになりました。

これは、共同募金の仕組みを利用して、ドリームキャンプ開催にご支援くださる方々(個人・団体)に募金をお願いし、集まった金額に応じて、共同募金会から、それに乗せて助成していただくというものです。

詳しくは以下の通りです。

(1) 振込方法について

『ひかり新聞』36号に同封したチラシにある専用の振込用紙に、必要事項をご記入の上、お手数をおかけしますが、必ず郵便局の窓口にてお振り込みください。振込料はかかりません。

なお、募金期間は平成31年1月1日～3月31日ですが、30日・31日は土曜・日曜日で郵便局窓口は閉まっていますので、29日(金)までにお願いたします。また、3月末の期限後に振り込まれた場合は「赤い羽根共同募金」として扱われますのでご注意ください。

チラシご入用の方は、実行委員会・奥原(連絡先は次頁に記載)までご連絡いただければお送りします。



社会課題解決「みやぎチャレンジプロジェクト」 募金用紙



気仙沼の未来を担う「こども育成プログラム」 『第8回ドリームキャンプ気仙沼大島』



「まごころ、感謝、思いやり」をモットーに東日本大震災の翌年（2012年）から、気仙沼の子ども達の心のケアと、これからの地域を担う子ども達の育成を願って、取り組んできたドリームキャンプです。2019年7月には「第8回ドリームキャンプ気仙沼大島」の開催を予定しています。今後も継続的な開催への要望も多く、開催に向けて運営資金のご支援・ご協力をお願いいたします。



野外炊飯ではまき割から体験、
どんどんスキルがアップしていきます。



班に分かれてグループワーク。
役割分担や、協調性が養われます。



大島の小田の浜で海水浴も楽しめます。



キャンプファイヤーは、
一生の思い出として心に刻まれます。

**目標募金額
500,000円**
キャンプ運営資金として
活用させていただきます



ドリームキャンプ実行委員会

〒988-0017 気仙沼市南町 1-2-15

TEL: 090-7426-3413 (奥原)

URL: <https://www.dreamcamps.info/>



★寄付は個人・法人とも**税制優遇**の対象

※この募金の運動期間は、平成31年1月1日から3月31日までとなります。

(2) 領収書

振込用紙に領収書と書かれた方には、宮城県共同募金会から領収書が発行され、実行委員会を通してお送りします。個人・法人とも優遇税制の対象になりますので、ご利用ください。

(3) 助成金額

集まった募金額に応じて、次のように助成金が上乘せられます。

今回の募金目標額は50万円以上としており、仮に50万円募金が集まると、宮城県共同募金会がプラス50万円してくださり、100万円となります。但し、チャ

シ等の経費として募金額の10%、この場合、募金額50万円に対して手数料5万円引かれます。従って、95万円が実行委員会に支給されることとなります。ご不明の点は、ドリームキャンプ実行委員会・奥原幹雄（左記）までお問い合わせください。

電話：090-7426-3413

メール：mikiok1975@gmail.com

募金の状況は、随時ホームページやFacebookページでお知らせします。皆様のご協力をお願いいたします。

熊本地震から 1,000日

移動図書館活動の展開を願って 被災された方、一人ひとりの思いを 聞かせてもらいながら

橋本信一（移動図書館おあしす代表・熊本県上益城郡）

1月9日付の「熊本日日新聞」によると、熊本地震で自宅を失い仮設住宅暮らしを続ける被災者のうち、65歳以上の高齢者のみの世帯が3割を超えている。さらに、このうち6割が一人暮らしだった。昨年9月に益城町と西原村でひかりプロジェクトが活動した際も、経済力のある若年層や壮年層が自宅を再建するなどして仮設住宅から転居しているが、高齢世帯の生活再建は非常に厳しいと聞かされた。

益城町、西原村の仮設団地で「移動図書館 おあしす」の活動を続けている橋本信一さんに、最近の様子を報告していただいた。（編集部）

移動図書館 おあしすは、平成28年熊本地震で被災した人たちが暮らす仮設団地で図書館活動を行っています。平成28年11月に活動を開始し、平成30年12月現在まで、延べ約4,300人に対して、約5,600冊の本の貸し出しを行いました。

12月のある日、一人の男性がポストに投函してあった「クリスマスカード」を持って移動図書館にやってきました。その「クリスマスカード」には、子どもが描いた絵とともに、「聖書」の一節がありました。喜ぶこと、祈ること、感謝することの大切さが記されていました。男性は、「地震で家が壊れ

たのに、なんで喜べるのか」「がんばればがんばれと言うが、これ以上何をがんばるのか」と言われるのです。

熊本地震から2年半が経ちますが、いまだに辛い思いを抱え続けておられる方がいるということを、男性の話を聞きながら改めて感じました。

また、毎回移動図書館を利用してくださっている女性の方は、突然脳梗塞で倒れました。幸い処置が早かったため、麻痺も後遺症も出ませんでした。一見元気そうに見える方でも、仮設団地での生活というのは、何がしかのストレスがかかっているのです。『今が一番きついかも』『もう限界…』とおっしゃる方もいます。



毎週金曜日、益城町木山団地で移動図書館活動

そうした中、12月24日、熊本県益城町木山仮設団地ではクリスマス会が催されました。木山団地の自治会では、復興への意識を一人ひとりが強く持ち、住民が積極的に行事や活動に関っており、今回のクリスマス会もその一つでした。団地の子どもたちで作る合唱グループ「スマイルナンバー」が手作りのクリスマス会を計画し、そこに保護者や自治会、ボランティアが協力して、クリスマス会を盛り上げるという内容でした。

スマイルナンバーのリーダー尾崎沙彩さん(中学2年生、15歳)は、「地震の時は笑顔になれなかったけど、今はこうして元気に歌うことができているので、少しは前に進むことができていると思う」と話しています。



春はもうすぐ！西原村小森仮設団地では隔週火曜日に活動(昨年4月撮影)

移動図書館の活動を開始して2年が経過しました。今では図書館活動を通して、被災された方々一人ひとりの思いを聞く「傾聴活動」が自然とできるようになりました。また、こうした演奏奉仕や炊

の演奏を行ったり、団地の方々と一緒に昼食のカレー作りをしました。みんなで歌い、おいしい食べ、楽しいひと時を過ごしました。



クリスマスイベントのオープニング
高校生と団地の子どもたち

地震発生日には追悼行事なども行っています。

今後もうこうした活動を通して、被災された方々の心に寄り添う取り組みを進めていきたいと考えています。

全国各地で大きな災害が起こり、仮設住宅などでの生活を余儀なくされている方も多くいらっしゃいます。そうした方々の助けにに向けて、さまざまな支援活動が展開していくことを願っています。



特製牛すじカレー
この日のスタッフは福岡や鹿児島からも



毎回30人前後が利用。スタッフも皆さんの話を聴く



高校生ボランティアによるパフォーマンス
クリスマスソングを演奏するおあしす楽団



